DAITO ROTARY

OSAKA JAPAN

CLUB WEEKLY BULLETIN

第２６６０地区
大東ロータリークラブ

■ 事務所
〒574-0046　大東市赤井１丁目 2-10
ポップタウン住道本館４階
ＴＥＬ：０７２－８７５－１２００
ＦＡＸ：０７２－８７５－０５９０
E-mail:office@daito-rc.org
http://www.daito-rc.org/

■ 例会
毎週火曜日　12 時 30 分～1 時 30 分
〒574-0076　大東市曙町 4-6
大東市民会館　４階「大会議室」
ＴＥＬ：０７２－８７１－０００１

◆4 つのテスト◆
言行はこれに照らしてから
① 真実かどうか？
② みんなに公平か？
③ 好意と友情を深めるか？
④ みんなのためになるかどうか？

地域を育み、大陸をつなぐ

創立 1967 年 12 月 26 日
■会　　長　加藤　敏明
■幹　　事　中原　　毅
■会報委員長　小林　誉典

２０１０年～２０１１年度 国際ロータリーのテーマ	地域を育み 大陸をつなぐ	国際ロータリー会長 レイ・クリンギンスミス

平成 23 年 5 月 10 日　　No. 2111　　H23. 4. 19　(No. 2110 の例会記録)

今週の卓話（5 月 10 日）

～住まいを考える～古くて新しい！?リフォーム工法!
「曳家・揚前（ひきや・あげまえ）工事」
東村　正剛　会員

次週の予定（5 月 17 日）

中嶋　啓文　会員

先週の例会報告

◆ 出席報告（4 月 19 日分）3RC 合同例会

会員数　44 名　出席数　37 名　欠席者　1 名
特定免除　6 名　その他免除　0 名
出席率　97. 73%

前々回 4 月 5 日分
ホームクラブの出席者　37 名　97. 73%
メークアップの結果　38 名
特定免除　6 名　その他免除　0 名
欠席者　0 名　修正出席率　100. 00%

ロータリーソング

「 奉仕の理想 」「 四つのテスト体操 」

ニコニコ箱

・早退お詫び　木田　眞敏　君
・早退お詫び　大西　寛治　君
・早退お詫び　成田　隆志　君

会長の時間　　加藤　敏明 会長

皆様、こんにちは。

今年度恒例の３クラブ合同の例会になっております。例年なら、桜が満開の中でのゴルフ。そして、親睦を計る為の会合などと楽しい例会月ですが、今年はさる 3 月 11 日に起きた日本での最大の地震及び津波、その上、東京電力福島第一原子力発電所原子炉での燃料核破損や、外部に放射性物質が漏れ出すなど深刻な状況が続いています。

被害にあった第２５２０地区（岩手、宮城）第２５３０地区（福島）のロータリアンの被害はたいへんなものであり、今は世界のロータリアンが全力で支援活動を行なっています。

各クラブにおいても、引き続き義援金及び寄付を募っていますので、皆様ご協力をよろしくお願い致します。

さて、本日は大東ロータリークラブの今年度の方針である、「基本からもう一度しっかり見ていこう」ということで、大震災への支援活動の根底となる、ロータリーの理念の一部をお話し致します。

まず、ロータリーを理解するには歴史的発展過程からと言いますが、これをおいておきまして、ロータリーの奉仕は個人個人の発意にあるということです。

そして、世間では、いや一部の会員の間にさえ、ロータリーは団体として奉仕する即ち寄付団体と心得ている人があります。これは大きな誤りであります。奉仕する団体ではなく、奉仕を志し、これを実践しようとする人々の集りであります。ロータリーが協会とか組合とかいわずにクラブと名づける理由はここにあります。そもそもクラブというのは同好者の集まりの謂であって団体として事を行なうのが目的ではなく、その同好者である会員にその目的を達せしめるために便宜をはかる世話機関であります。従って奉仕の原動力となる会員の善意の高揚が基本であって、団体としてのクラブの奉仕活動はむしろ会員のための実地訓練とみるべきでありましょう。よく奉仕のスケールが意外に小さいとの世評をうけますが、いわばこれは奉仕の見本であって真の大奉仕は会員個人個人がやるべきであり、現に沢山の実践をあげているのであります。このように究極は個人の奉仕に期待をかけておりますからこそ会長は「まずあなたから」と呼びかけているのでございます。

従ってロータリークラブの社会奉仕委員会は団体として奉仕事業を行なうよりは個々の会員に奉仕してもらうよう仕向けるのがその使命であります。

最後に

最もよく奉仕する者、最も多く報いられるというロータリーの基本原則を実証することであります。

委員会報告

◎国際奉仕・世界社会奉仕委員会　　中村　眞也　委員長

台北雙溪ロータリークラブより、東北太平洋沖大震災のお見舞いメールを頂いております。義援金につきましても、５月２日に３００万円という多額の義援金振込みをして頂けるということです。振込みを確認いたしましたら、第２６６０地区へ送金したいと思います。

◎ロータリー財団委員会　　髙島　登　委員長

ＲＩ２６６０地区職業研修派遣団員の募集

《ロータリー財団ＧＳＥプログラム》

国際ロータリー第２６６０地区では、若い社会人がそれぞれの専門職業を通じて国際相互理解を図るため、約１ヶ月間の海外研修を行っています。

このたび、２０１２年２月にスリランカ地区へ派遣する団員を募集します。

応募資格など、詳細につきましては事務局へお問合せ下さい。

「 富士ひとつ　うずみ残して　若葉かな 」

与謝蕪村

あたり一面、見わたすかぎり若葉にうずめられている中に、まだ雪の残る富士山だけがうずめ残され、ぽっかりと顔を出している。「うずみ」は、「埋み」で、うずもれるという意味。
季語：若葉（夏）

先週の卓話

「この地域の歩み」

岡本　日出士　会員

現在私たちが住んでいる、大東・四條畷の地域には2500年以前から人々が生活しており、約1500年前の堂山古墳群をはじめ、岡山・忍ヶ丘遺跡他等、飯盛山麓一帯に、朝鮮半島からやってきた渡来系の人々と共に活動していた痕跡が、多くの刀剣や甲冑等の武具や、生活用品等の出土品から想像される。

平安・鎌倉時代この地域は、大きな池が中心となっており、この頃整備された東高野街道沿いには集落が点在し、奈良や高野山に行く交通の要衝として、中垣内や寺川、そして池の周辺には三箇、灰塚、氷野、津の辺、砂等多くの村が形成され、低地への開発も進んだ。

室町・戦国時代、東高野街道が通るこの地域は、戦略上重要な場所である為、度々戦乱の舞台として歴史に登場する。

南北朝の戦いでは「四條畷の合戦」が知られ、その後この地域を畠山氏が支配したが、養子と実子の相続で100年戦争となり、平穏な時代を迎える間もなく応仁の乱に突入、やがて三好長慶が飯盛城を居城とし、この地域を支配、深野池に浮かぶ島には飯盛城の支城である三箇城があり、城主の三箇サンチョはキリスト教を深く信じ協会を建て、領内の仏教寺院を取り壊し、1500 名の臣下や多くの住民が集団改宗し、キリシタンの中心地となったこと等、宣教師フロイスによって遠くヨーロッパ迄伝えられている。

ところが、三好氏が織田信長に追われ、信長は石山本願寺と戦端を開き再び戦場になってしまう。

キリシタンの中心的な存在となっていた三箇氏が本能寺の変で明智光秀に味方した為、豊臣秀吉の攻撃を受け炎上消失する。

徳川・豊臣による大阪冬の陣・夏の陣の時にも、この地は何十万人といわれる徳川方兵士が大阪城包囲網の一部を形成した。

江戸時代、平和な時が流れたが農業技術の飛躍的な進歩により増産される農作物に応呼して税収を上げる為、幕府により繰り返し検地が行われた。

この時代、この地域の一大変革は大和川の付替えだ。

大和川が柏原から北上し、深野池に流入していたが、流域一帯は低地なので少しの降雨で氾濫した。1674 年から 3 年続いた深野池の決壊では、この地域は無残な被害を受け住民の困窮は大変なものであった。これが解決の為、この川を西へまっすぐ大阪湾に流そうとするもので中甚兵衛氏らの尽力で、1704 年に現在の様に切り替えられた。このことにより広大な深野新田が開拓され、多くの農民が入植し、平野屋会所によって管理された。

やがて明治維新、大阪城は炎上するが、この地域での戊辰戦争の影響は比較的少なく、政治行政の変化は皆さんご承知の通りです。

明治 18 年（1885 年）淀川左岸の堤防が決壊、浸水地域は北河内、中河内から大阪市内に及び、祖父の話では、軒下に迄達し、「助けてくれ」の叫び声が四方から途切れる事がなかったそうです。家屋の浸水 71,000 戸、流失 16,000 戸、被災人口 276,000 人に達し「明治大洪水」と云われ淀川改良工事を発足させる契機となった。

ちなみに、明治 18 年府県別人口は、大阪府 163.3 万人で、2 位新潟県の 162.6 万人を抜き、初めて全国 1 位となった年でした。東京府は、104.0 万人でした。

その後も低地では浸水が繰り返しあったが、大きなものは昭和 47 年、50 年の寝屋川、恩智川の溢水による大東水害で 2m 近くの高さ迄、水が来たと云われている。

大東市、四條畷市の概況

	市政施行	人口（人）	財政規模（千円）	最新人口（人）	平成 23 年財政規模（百万円）
大東市	S31.4.1	30,621	153,391（一般会計）	127,253（H23.2 月末）	39,681（一般会計）
四條畷市	S45.7.1	37,893	1,093,147（一般会計）	57,568（H23.2 月末）	19,830（一般会計）

大東市（人口）　明治 36 年（1903 年）　13,205 人
　　昭和 26 年（1951 年）　27,223 人